

## ● 第 45 期スローガン “会社と社員の体質を変える”



第 45 期事業計画の“魚の骨<sup>(注1)</sup>”を発表する安原常務

第 44 期の振り返りで、千賀取締役から次の言葉を頂きました。

①使用済みエンジンオイルを回収する収集チームは、チーム全体でのコスト削減。②隠岐の島での西郷発電所燃料配管取替工事の成功。この 2 点が 44 期の利益改善に結果繋がった。45 期は、44 期の反省から、もっと利益を出すことの重要性を、社員皆が考え実践すること。そして、社員は、仲間や会社やお客様を大事にする。その根底には、『思いやり』を持つことが大事であることを教えて頂きました。

後半は、山根社長より会社の方針の発表があり、①会社の基本 ②新しい商品づくり ③世の中(業界)の変化の 3 点について話がありました。

③については、2040 年からは、フランス・イギリスではガソリン車、ディーゼル車の販売の禁止が検討されています。このように世界を見ても、市場の変化が進んでいます。お客様が求める商品は何か？世の中が必要とするものは何かを考える。

世の中はどんどん変わります。社員の皆さんもそして会社も変えて行きましょう。と、山根社長から今期の方針が発表されました。

注 1. 『魚の骨』とは特性要因図と呼ばれ、結果(特性)と原因(要因)の関係を系統的に線で結び一覧で表した図であり、管理や分析に用いられる事が多い。

7 月 15 日、第 45 期事業発展計画発表会を開催し、今期の事業計画が発表されました。

発表会の前半では全体の振り返りを安原常務が行い、個別ではエネルギーサポート事業部から収集担当の大國課長、処理 K Y S 担当の松下部長、メンテナンス事業部の安原常務(代行)が前期を振り返りました。私たちの業界は依然厳しい環境の中で、立案した計画の活動報告や売り上げを含めた数値目標をそれぞれが、達成することが出来ました。



前期の振り返りを発表する大國課長



44 期を総括する千賀取締役

今年の社長賞は、3名が受賞しました。  
まずは、木村憲二社員、高橋力社員の2名です。  
両名は、全国オイルリサイクル協同組合主導による、再生重油の商品開発に人力を尽くしました。

使用済みエンジンオイルから作られるリサイクル燃料には、カルシウム分が含まれる灰分があることで、燃焼設備の改善や日々のメンテナンスが必要となることから、リサイクル燃料の販売先が限られているのが現状です。

この問題点を解決する為、低灰分リサイクル燃料の開発に両名が取り組みました。結果、A重油より燃焼性の優れたリサイクル燃料を開発したのです。

また、低灰分リサイクル燃料に廃食油を混ぜ合わせた低灰分バイオリサイクル燃料は、ハウス農家で使用している加温機でも、安定した燃焼性を発揮しました。将来は、ボイラー用燃料として低灰分リサイクル燃料を、ハウス農家用燃料として低灰分バイオリサイクル燃料を、販売する日もやってくると考えられます。

社長賞3人目は、松下部長です。隠岐の島にある中国電力(株)西郷発電所内の、燃料配管取替工事及び消火設備取付け工事の完成です。  
工事期間はのべ6か月に及ぶ工事でしたが、協力会社の方々とコミュニケーションを取りながら工程とおりに進め、今年の3月24日にはすべてを引き渡すことが出来ました。

お客様に、安心と信用を提供できたと思います。



受賞者を発表する山根社長



社長賞受賞の松下部長